

授業科目	構音障害Ⅱ（機能性）				
担当者	吉田紀子				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

機能性構音障害の指導に必要な基礎知識を学ぶ。
 構音の評価および結果の分析、指導のすすめかたについて学ぶ。

■ 到達目標

- ・ 構音発達の過程と機能性構音障害について理解する。
- ・ 構音を正確に聴き取り、記録することができる。
- ・ 構音障害の検査、結果の分析、構音指導を立案・実施することができる。

■ 授業計画

- 第1回 機能性構音障害とは
- 第2回 幼児期の構音発達
- 第3回 日本語の構音
- 第4回 構音の聴き取りと記録
- 第5回 機能性構音障害における構音の誤り①
- 第6回 機能性構音障害における構音の誤り②（異常構音）
- 第7回 構音の評価
- 第8回 構音検査（演習）
- 第9回 評価結果の分析①
- 第10回 評価結果の分析②（演習）
- 第11回 指導プログラムの立案
- 第12回 構音別の指導方法
- 第13回 ケーススタディー①
- 第14回 ケーススタディー②
- 第15回 ケーススタディー③

■ 評価方法

筆記試験100%、正当な理由がない欠席や遅刻は減点とする（欠席：-2点、遅刻 -1点）。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

基礎知識から評価・指導まで幅広く学びます。授業後には復習し、不明な点は次回質問するなどして理解を深めてください。

■ 教科書

書 名：言語聴覚療法シリーズ 改訂機能性構音障害
 著者名：本間 慎治
 出版社：建帛社

■ 参考図書

--

■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。